

令和六年秋号

大乘院だより

仏教のまごころを、あなたへ

Vol.12

今年の秋

御縁を頂ける私

昨年と比べ幾分かは過ぎやすい秋の訪れ。

汗が止まらなかつたあの猛暑が少し物寂しく感じるのは私だけかも知れませんが。

さて、今年のお盆も無事にお勤めをさせていただけました事、改めてお礼申し上げます。私の為に部屋を涼しくして下さったり、或いはお寺にお越しの際、わざわざ挨拶をして下さったり、大切な皆様との距離が少し近く感じる事が出来ました。また残念ながらお会いできませんでしたが、お寺を通じてご縁を頂けている事に手を合わせ、

御縁の不思議さ大切さを感じる毎日を過ごさせて頂いております。

今年は特に、お墓参りや今後のお墓守りについてご質問が多数寄せられました。テレビやラジオでも墓じまいや永代供養について特集が組まれていたそうです。そこで今回は皆様が不安に感じられるお墓の相続について少しお話をさせていただきます。

墓じまいとは

まず初めに考えるべき事は、最終的な御骨の収め先です。代々墓守が受け継がれても、その先どこかで途絶える可能性もあります。最後はお寺や代理人等が御骨を管理する事になります。そのため墓守や御家族に変わって御骨の管理をす

る「永代供養」が欠かせないわけですね。どこかの世代のタイミングで必ず「永代供養」をするわけですから、今の世代で御骨の移動先に永代供養がついているものを選ばれる方が多いのもその現われでしょう。

大乘院の永代供養では多宝塔に御骨を安置し、両彼岸とお盆に必ずお勤めをさせていただきます。また、永代供養付きのお墓や納骨堂もありますので墓守や御家族からの申し出があればすぐに移動することも出来ます。地域や場所によって永代供養の仕組みに相違がありますので、ご家族様が今後どうしたいのかを明確にする必要があります。

和

そして何より大切なのはご家族や御親戚さんとのご理解が大切です。御家族だけで決めて、のちに御親戚の方とトラブルになるケースもありますので、おひとり決めて皆さんと

のお話し合いも必ず行いましょう。

中々口に出しづらいテーマかもしれませんが、生あるものは必ず死に帰します。これは万人が避けられません。とはいえ、誰もが聞きたくもない、考えたくもない事でもあります。ですが皆様には大乘院という菩提寺があります。お経をあげるだけが菩提寺ではありません。少しでも不安を解消したり和らげる、これもまた私達の法務だと思っております。せっかくのお寺とご縁です。いつでも頼りにして頂けたらと願っております。

国安寺院代 隆道 合掌

